

②「遠藤未希さん」

「6メートルの津波が来ます。早く高台へ避難してください！」  
宮城県南三陸町危機管理化職員、遠藤未希さん（当時24歳）が防災対策庁舎から防災無線で町民に避難を呼びかけ続け、自らは津波の犠牲になったという英雄的行為への賞賛は今なお止まない。

地震発生から約30分後、予想をはるかに越える10メートル強の巨大津波が同庁舎を直撃、20人ばかりの人々が犠牲になり、彼女もその一人だった。一昨年7月に結婚したばかりの新婚ホヤホヤだったという。

この痛ましい犠牲から約1年後、埼玉県教育局は、同県の公立学校で今年4月から使われる道徳の教材に、この遠藤さんのエピソードを掲載することを発表した。この教材は東日本大震災を受けて埼玉県が独自に作成し、公立の小中高約1250校で使用される。おそらく何十万人以上という多くの子供たちが、遠藤さんの素晴らしい責任感や思いやりに満ちた行為について学ぶに違いない。

実はこの話は神であるキリストが我々人類の為にされた行為に驚くほど似ている。彼曰く

「よくよくあなたがたに言うておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。」

ヨハネの福音書12章24節：口語訳。

これが世界的に有名な“一粒の麦のたとえ”である。故マーティン・ルーサー・キング牧師などは正にこの言葉を実践したと言える。メシアであるイエスが一粒の麦となって人類を救う為に犠牲になり、その結果多くの人々が救われたという意味のほかに、我々一人ひとりもまた自己を後回しにして人々を愛することによってさらに愛が満ち溢れ、豊かな世界を築くことが出来るということでもある。日本人が神の愛を信じ、豊かに実を結ぶことを心から願う。

2012-3-17

